

# 2024年3月期第2四半期 決算説明資料



写真:サービスセンター関東

2023年11月9日

**デンヨー株式会社**

## I. 2024年3月期第2四半期決算の概要

## II. 2024年3月期通期の見通し

**2024年3月期  
第2四半期決算概要**

# 2024年3月期第2四半期実績ハイライト(連結)

## ポイント

連結売上高、利益ともに前年同期を上回る。

(単位:百万円)

	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高	28,271	100%	34,201	100%	5,930	21.0%
営業利益	1,083	3.8%	2,167	6.3%	1,083	100.0%
経常利益	1,157	4.1%	2,305	6.7%	1,148	99.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	800	2.8%	1,598	4.7%	797	99.6%
設備投資	967		554		△ 413	△ 42.7%
減価償却費	606		613		7	1.6%
1株当り四半期純利益	38.64円		77.46円		38.84円	100.5%
R O E	2.6%	年換算	4.8%	年換算		
1株当り中間配当金	23.0円		24.0円			

# 製品別売上高の動向(連結)

## 概況

1. 発電機は 5,917百万円(25.4%)の増加。
2. 溶接機は 15百万円(0.7%)の減少。
3. コンプレッサは 21百万円(5.5%)の減少。

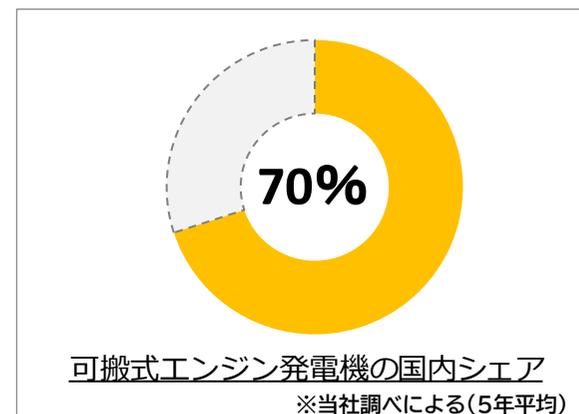
(単位:百万円)

		2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高		28,271	100%	34,201	100%	5,930	21.0%
製品別	発電機	23,284	82.4%	29,201	85.4%	5,917	25.4%
	溶接機	2,138	7.6%	2,122	6.2%	△ 15	△ 0.7%
	コンプレッサ	385	1.4%	364	1.1%	△ 21	△ 5.5%
	その他	2,461	8.7%	2,512	7.3%	50	2.1%

# エンジン発電機(連結)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
発電機	23,284 <sup>百万円</sup>	29,201 <sup>百万円</sup>	25.4 <sup>%</sup>

- 国内は、可搬形の大型発電機が増加。防災設備用の非常用発電機も堅調に推移。
- 海外は、アメリカ市場向けが好調に推移。



静音発電機  
マーリエ



運転データ記録機  
能付発電機

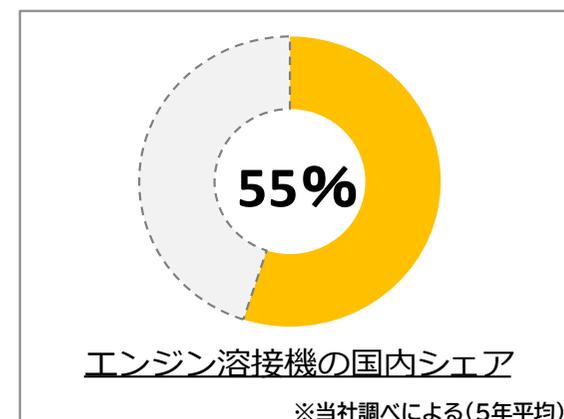
1kVAから1100kVA までのエンジン発電機を製造

- 可搬形発電機  
建設現場、土木工事、災害復旧・復興などの動力源
- 非常用発電機(定置形)  
防災設備やオフィスなどのバックアップ電源
- 電源車など

# エンジン溶接機(連結)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
溶 接 機	2,138 <sup>百万円</sup>	2,122 <sup>百万円</sup>	△ 0.7%

- 部品不足の影響もあり若干減少。



炭酸ガス溶接機

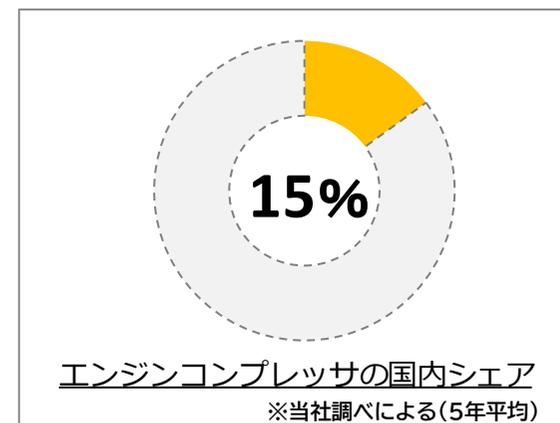
屋外作業の溶接機として当社が日本で初めて開発  
軽量鉄骨溶接用の135Aから重量鉄骨溶接用の500Aエンジン溶接機、  
およびTIG溶接機、炭酸ガス溶接機など

- ビルやマンション、橋梁などの鉄骨構造物の溶接
- 石油備蓄タンク、パイプラインなどの重要構造物の溶接

# エンジンコンプレッサ(連結)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
コンプレッサ	385 <sup>百万円</sup>	364 <sup>百万円</sup>	△ 5.5 <sup>%</sup>

- 国内向けエンジンコンプレッサが減少。



エンジンコンプレッサ



モータコンプレッサ

- 吐出空気量1.7<sup>m<sup>3</sup>/min</sup>から45.3<sup>m<sup>3</sup>/min</sup>まで製造
- 道路工事のはつり作業、地盤改良工事
  - 山岳道路の土砂崩れ防止のモルタル吹き付け工事
  - スキー場の人工降雪機用など

# その他の他(連結)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比 増減率
その他	2,461 <sup>百万円</sup>	2,512 <sup>百万円</sup>	2.1%

- 製品に付随する部品やメンテナンス売上が増加。

## その他の売上

- 高所作業車
- 負荷試験装置
- 部品売上
- 中古機や仕入商品売上
- 修理売上など



高所作業車

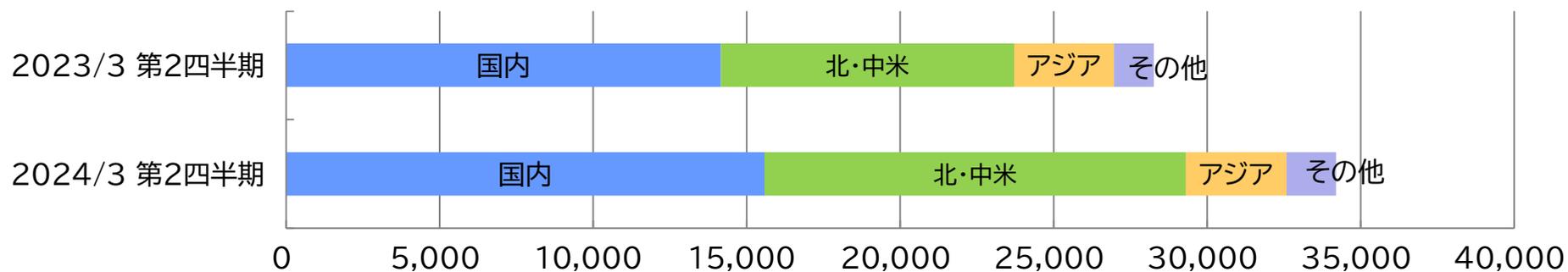


負荷試験装置

# 地域別売上高の動向(連結)

(単位:百万円)

		2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高		28,271	100%	34,201	100%	5,930	21.0%
国内売上高		14,164	50.1%	15,589	45.6%	1,424	10.1%
海外売上高		14,106	49.9%	18,612	54.4%	4,506	31.9%
地域別	アメリカ	9,551	33.8%	13,714	40.1%	4,163	43.6%
	アジア	3,258	11.5%	3,281	9.6%	23	0.7%
	その他	1,296	4.6%	1,616	4.7%	319	24.6%



# 営業利益増減の要因分析

## 営業利益増

主要部品の仕入価格上昇による影響があったものの、売上高の大幅な増加により経費率が低下。

(単位:百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比 増減
営業利益	1,083	2,167	1,083
営業利益率	3.8%	6.3%	2.5ポイント

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比 増減
売上総利益率	19.2%	19.4%	0.2ポイント
売上高販管費比率	15.3%	13.1%	△ 2.2ポイント
売上高営業利益率	3.8%	6.3%	2.5ポイント

- 売上総利益率は、主要部品の値上げにより若干の上昇にとどまる。
- 売上高販管費比率は、人件費等が増加したが、売上高の増加により低下。

# 連結貸借対照表

## 概要

1. 流動資産 3,175百万円の増加は、主に現金及び預金、売上債権などの増加による。
2. 流動負債 1,071百万円の増加は、主に仕入債務などの増加による。

(単位:百万円)

	2023年3月期 期末	2024年3月期 第2四半期	前期末比 増減額
流 動 資 産	61,517	64,692	3,175
固 定 資 産	28,227	30,224	1,997
資 産 合 計	89,744	94,916	5,172
流 動 負 債	17,700	18,772	1,071
固 定 負 債	3,385	3,968	583
負 債 合 計	21,085	22,740	1,654
純 資 産 合 計	68,658	72,176	3,517
負 債 純 資 産 合 計	89,744	94,916	5,172

# 連結キャッシュ・フローの推移

## 概要

1. 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益などの計上により、2,894百万円。
2. 現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ 1,698百万円増加。

(単位:百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,536	2,894
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,030	△ 692
I + II フリー・キャッシュ・フロー	1,506	2,202
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 399	△ 658
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	83	155
V 現金及び現金同等物の増減額	1,190	1,698
VI 現金及び現金同等物の四半期末残高	24,548	24,029

**2024年3月期の見通し**

# 2024年3月期予想～連結損益の見通し

## ポイント

- ・売上高は、695億円と予想。
- ・為替レートは、135円/ドルを想定。

(単位:百万円)

	2023年3月期		2024年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	64,311	100%	69,500	100%	5,189	8.1%
営業利益	4,874	7.6%	5,300	7.6%	426	8.7%
経常利益	5,180	8.1%	5,600	8.1%	420	8.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,633	5.7%	3,800	5.5%	167	4.6%
設備投資	4,213		1,800		△ 2,413	△ 57.3%
減価償却費	1,266		1,300		34	2.7%
1株当り当期純利益	175.6円		184.1円		8.5円	
R O E	5.7%		*5.8%			
1株当り配当金(円)	50.0円		53.0円			

\*自己資本は前期末の金額で計算

# 製品別売上高の見通し(連結)

## 概況

- ・国内向けは堅調な建設需要を背景に順調に推移するものと予想。
- ・海外向けはアメリカ市場向けを中心に堅調を見込む。

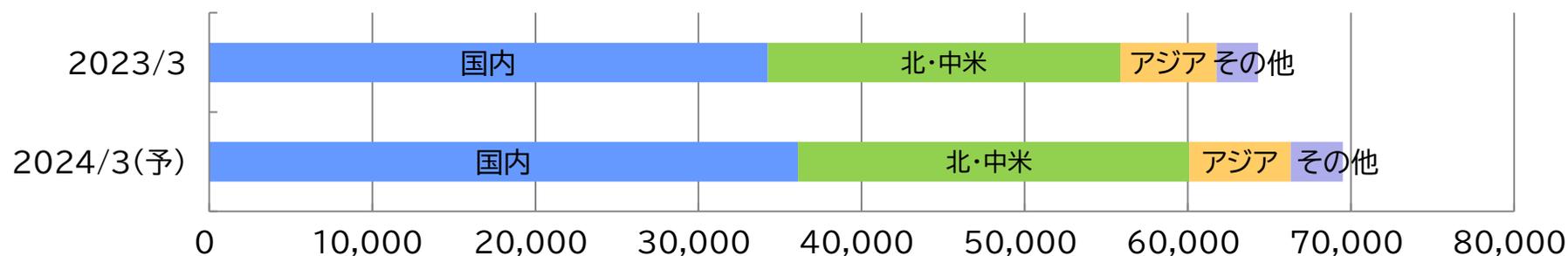
(単位:百万円)

		2023年3月期		2024年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		64,311	100%	69,500	100%	5,189	8.1%
製品別	発電機	53,700	83.5%	58,700	84.5%	5,000	9.3%
	溶接機	4,401	6.8%	4,500	6.5%	99	2.2%
	コンプレッサ	727	1.1%	700	1.0%	△ 27	△ 3.7%
	その他	5,482	8.5%	5,600	8.1%	118	2.2%

# 地域別売上高の見通し(連結)

(単位:百万円)

		2023年3月期		2024年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		64,311	100%	69,500	100%	5,189	8.1%
国内売上高		34,244	53.2%	36,100	51.9%	1,856	5.4%
海外売上高		30,066	46.8%	33,400	48.1%	3,334	11.1%
地域別	アメリカ	21,617	33.6%	24,000	34.5%	2,383	11.0%
	アジア	5,902	9.2%	6,200	8.9%	298	5.0%
	その他	2,547	4.0%	3,200	4.6%	653	25.6%



# 営業利益予想の内容

## 営業利益増

売上高の大幅な増加による経費率の低下から増益を見込む。

(単位:百万円)

	2023年3月期	2024年3月期(予)	前期比
営業利益	4,874	5,300	426
営業利益率	7.6%	7.6%	0.0 ポイント

	2023年3月期	2024年3月期(予)	前期比増減
売上総利益率	21.2%	20.5%	△ 0.7 ポイント
売上高販管費比率	13.6%	12.9%	△ 0.7 ポイント
売上高営業利益率	7.6%	7.6%	0.0 ポイント

- 売上総利益率は、原材料上昇分の販売価格への反映効果が現れるも、前期比では低下を予想。
- 売上高販管費比率は、売上高の増加による低下を見込む。

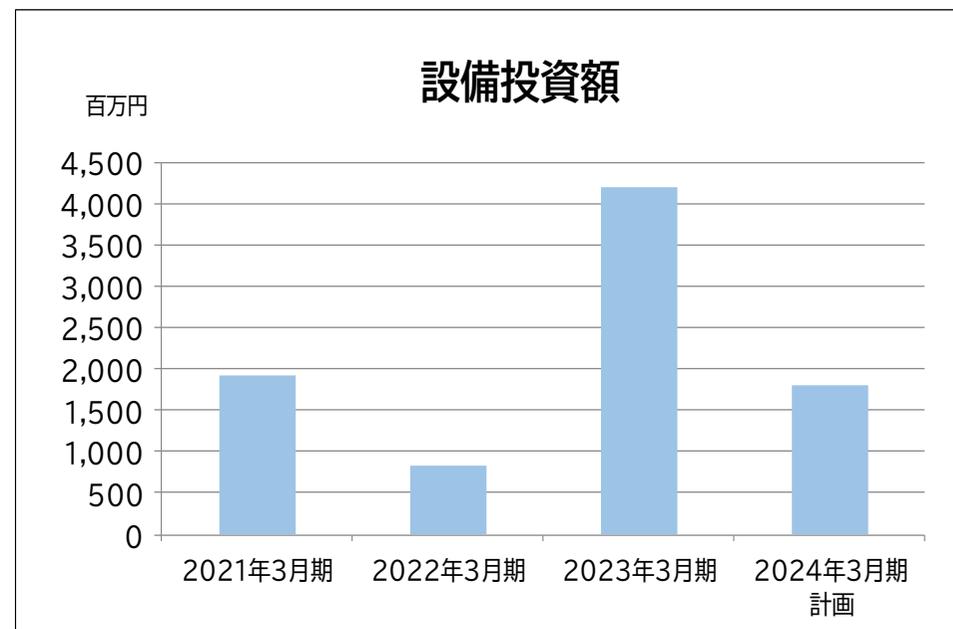
# 設備投資額の推移

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 計画
設備費	1,918	839	4,213	1,800
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 1,450</li> <li>・ニシハツ 110</li> <li>・アメリカ工場 30</li> <li>・ベトナム工場 20</li> <li>・その他 300</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 290</li> <li>・ニシハツ 50</li> <li>・アメリカ工場 20</li> <li>・ベトナム工場 20</li> <li>・その他 460</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 360</li> <li>・ニシハツ 2,500</li> <li>・アメリカ工場 20</li> <li>・ベトナム工場 70</li> <li>・その他 1,260</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 800</li> <li>・ニシハツ 150</li> <li>・アメリカ工場 200</li> <li>・ベトナム工場 200</li> <li>・その他 450</li> </ul>



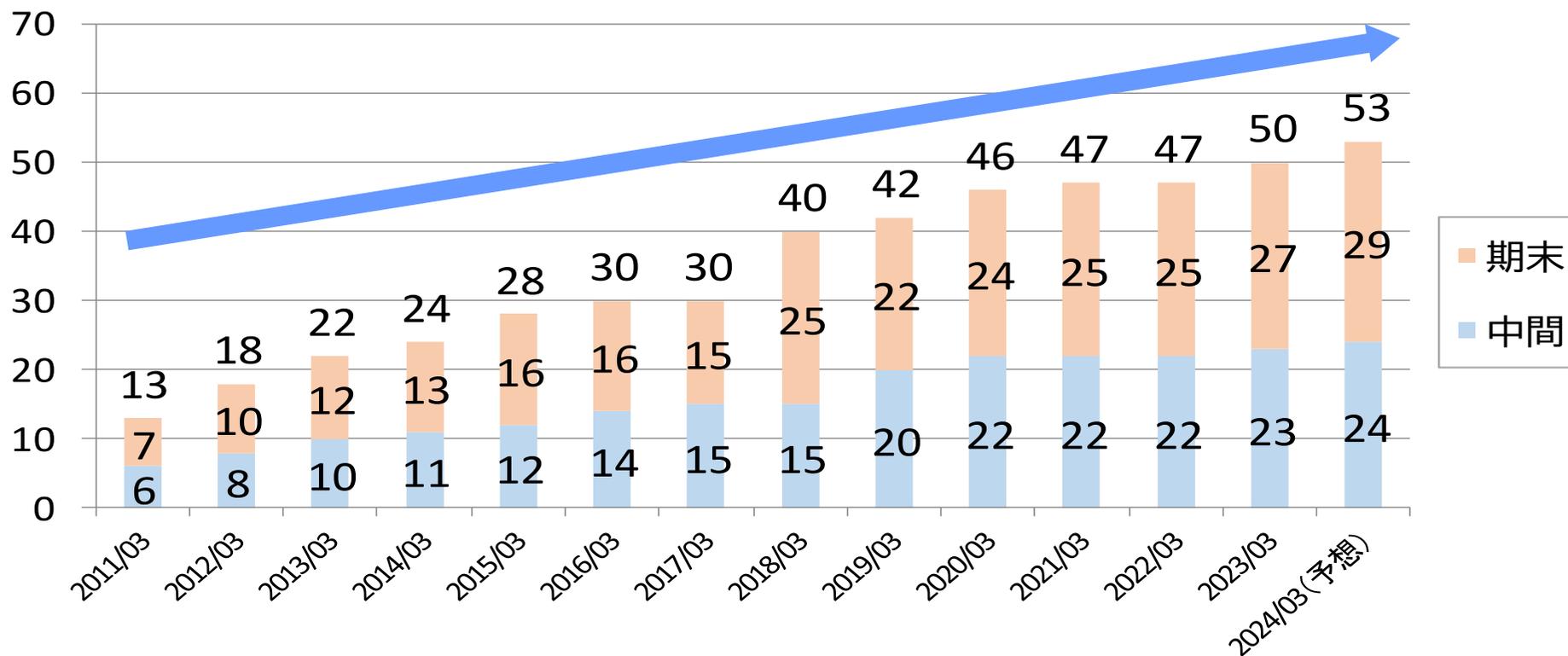
建設中の新工場(ニシハツ 佐賀県唐津市)



# 利益配分の方針

- ・2024年3月期より**累進配当**を導入(原則として減配せず、維持または増配)  
→2011年3月期から2023年3月期までの13年間減配せず、そのうち10回を増配としており、この実績を継続していくことを明確化
- ・収益力の向上と財務体質の強化に努めながら、株主の皆様に対する利益の還元をより充実していくことが重要と認識し、**累進配当の継続を前提に業績や配当性向などを総合的に勘案した成果配分を実施**
- ・期末配当金の予想を1株当たり前回予想の27円から29円に2円増配(年間53円)

## 年間1株配当推移



# 今後の事業戦略(第二次中期経営計画の概要)

## Denyo 2023 ~Powering up for the future~

### 基本方針

建設関連分野における高品質パワーソースのトップランナーとしての地位を堅持しつつ、建設関連外・海外向けの比率を高め、環境変化に強い収益構造を実現する。

2023年度・経営目標	
連結売上高	610億円+α
経常利益	62億円
ROE	6.5%以上

SDGs(ESG)取組方針	
E:地球環境の保全に貢献	・環境性能の高い製品の開発 ・廃棄物削減、リサイクル、温室効果ガスの排出削減 他
S:持続可能な社会の実現	・インフラ整備や防災、減災など豊かな社会づくりへの貢献 ・安全安心な製品の提供 他
G:長期的な企業価値の向上	・法令、社会規範、倫理、社内規程などのルール遵守 ・公正な事業活動の推進 他

### 国内市場戦略

#### 【建設関連事業】

エンジン発電機、溶接機といったトップブランド製品を中心に国内シェアの維持・向上を目指す

- ①顧客ニーズを捉えた新製品の投入によりシェアアップ、市場拡大を図る
- ②営業活動の効率化、高度化を目指す

#### 【建設関連以外の事業】

非常用発電機のさらなる拡販のための土台構築に取り組む

- ①専門知識向上のための教育体制の充実
- ②グループ間の連携強化
- ③製品メンテナンス体制の充実

### 海外市場戦略

#### 【海外事業】

ターゲットとする高品質市場におけるプレゼンス向上を目指す

- ①市場調査や機能面等の強化による製品ラインナップの拡充を図り、新市場開拓を目指す
- ②各国販売店網の再整備と教育体制の充実により、販売力強化を図る
- ③マーケティング機能を強化し、顧客接点を増やす
- ④定置形発電機のシリーズ化による、市場の継続開拓

### 経営基盤の強化

#### 【開発】

高品質パワーソースのパイオニアとして、市場をリードする製品開発を行う

- ①市場ニーズを的確に捉え、開発スピードの向上を図る
- ②新機軸製品の開発への対応強化

#### 【生産】

グローバル競争力を備える生産体制を構築

- ①生産現場力の強化やIT化推進により、柔軟かつ高効率の生産体制を確立する
- ②国内生産拠点の整備・高度化を図る

#### 【組織】

多様な人材が活躍できる体制づくり

- ①教育体制の一層の拡充や人事制度の見直しにより、やりがいと働きやすさの両立を目指す
- ②各工程におけるシステム化の推進

# カーボンニュートラルに向けた取り組み

デンヨーは、地球環境問題を経営の重要な課題の一つとして位置付け、カーボンニュートラルへ向けた取り組みを積極的に推進してまいります。地球温暖化防止に向けたCO2排出量の削減や大気汚染防止のための一つとして、燃料電池をはじめとする水素社会への取り組みが有効であると考えています。

## 水素混焼発電機

- 販売を開始し、初号機をコマツ小山工場に納品
- 燃料に水素を最大 50%混合した発電が可能
- 軽油のみを燃料とする場合と比較してCO2の発生を最大50%削減
- コマツと株式会社日立製作所の技術供与により製品化に成功
- 水素サプライチェーンを構築するためのキープロダクトとして拡販

想定用途: 副生水素を活用した自家消費、停電対策用電源 等



コマツ 小山工場に導入した水素混焼発電機

### ■本発電機の仕様

発電出力	250kW
出力電圧	200/400V
周波数	50Hz
水素燃料消費量	115Nm <sup>3</sup> /h(50%混焼時)
軽油燃料消費量	34L/h(50%混焼時)
発電効率	35~40%
水素混焼率範囲	0%~50%(軽油のみでも運転可能)

# カーボンニュートラルに向けた取り組み



## 燃料電池式可搬形発電装置

- 環境省「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」採択
- 燃料電池専用パワーコンディショナーを新たに開発・搭載
- 2021年6月から実証運転開始

想定用途: 土木・建設工事、災害発生時の生活電源、テレビ中継や各種イベント等



## 水素専焼発電機

- 水素のみを燃料としCO2を排出しない
- ボリュームゾーンである45kVAクラスの開発から着手
- 2025年以降の市場投入を目指す

想定用途: 土木・建設・港湾工事、テレビ中継や各種イベント、レジャー 等



## モバイルバッテリー搭載LED投光機

- 騒音やCO2を排出しない
- 着脱できるカートリッジ式のリチウムイオンバッテリーを使用
- 長時間運転可能

想定用途: 夜間工事、イベント 等

# 見通しに関する注意事項

---

この資料には、2023年11月9日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれています。

今後の経済変動、競合状況などにより、実際の業績が予測と大幅に異なる可能性があります。

あくまでも、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。

投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

当社のIRに関するお問い合わせ先

経営企画室 藤本・後藤  
電話:03-6861-1178  
FAX:03-6861-1185

# 參考資料

# 当社の概要

## エンジン発電機、エンジン溶接機など野外パワーソースのトップメーカー

沿革: 1948年7月2日	「日本電機溶接機材株式会社」として設立
1959年	我が国初の高速エンジン溶接機を開発、発売
1961年	エンジン発電機の生産、販売開始
1966年	防音型開発 デンヨー株式会社に社名変更
1983年	東証二部上場
2000年	東証一部上場
2022年	プライム市場に移行

### 会社規模など(2023/3期・連結ベース)

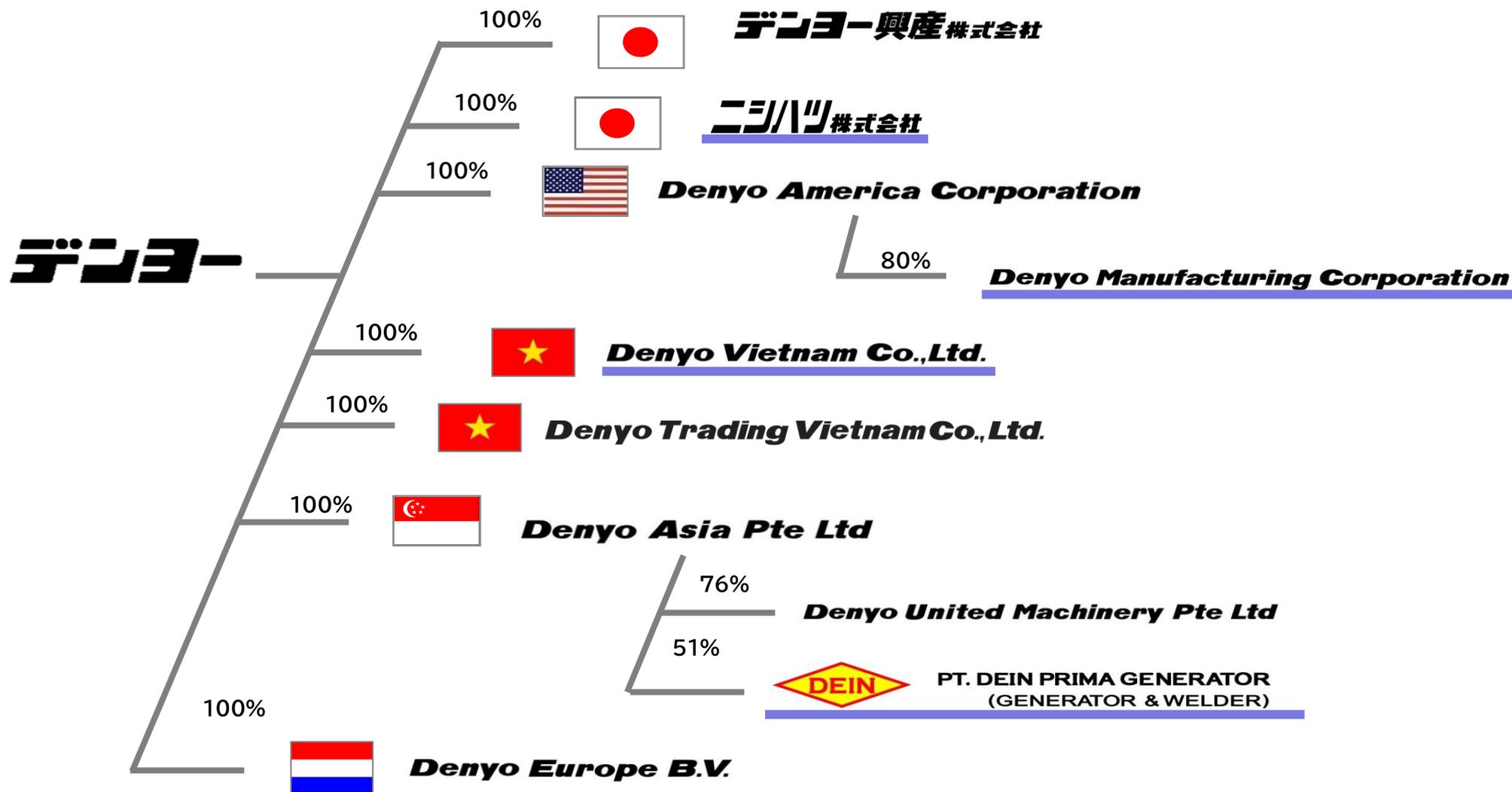
(単位:百万円)

売上高	64,311
うち海外売上高	30,066
経常利益	5,180
親会社株主に帰属する当期純利益	3,633
総資産	89,774
純資産	68,658
時価総額(3/31時点)	38,884
従業員数	1,381人



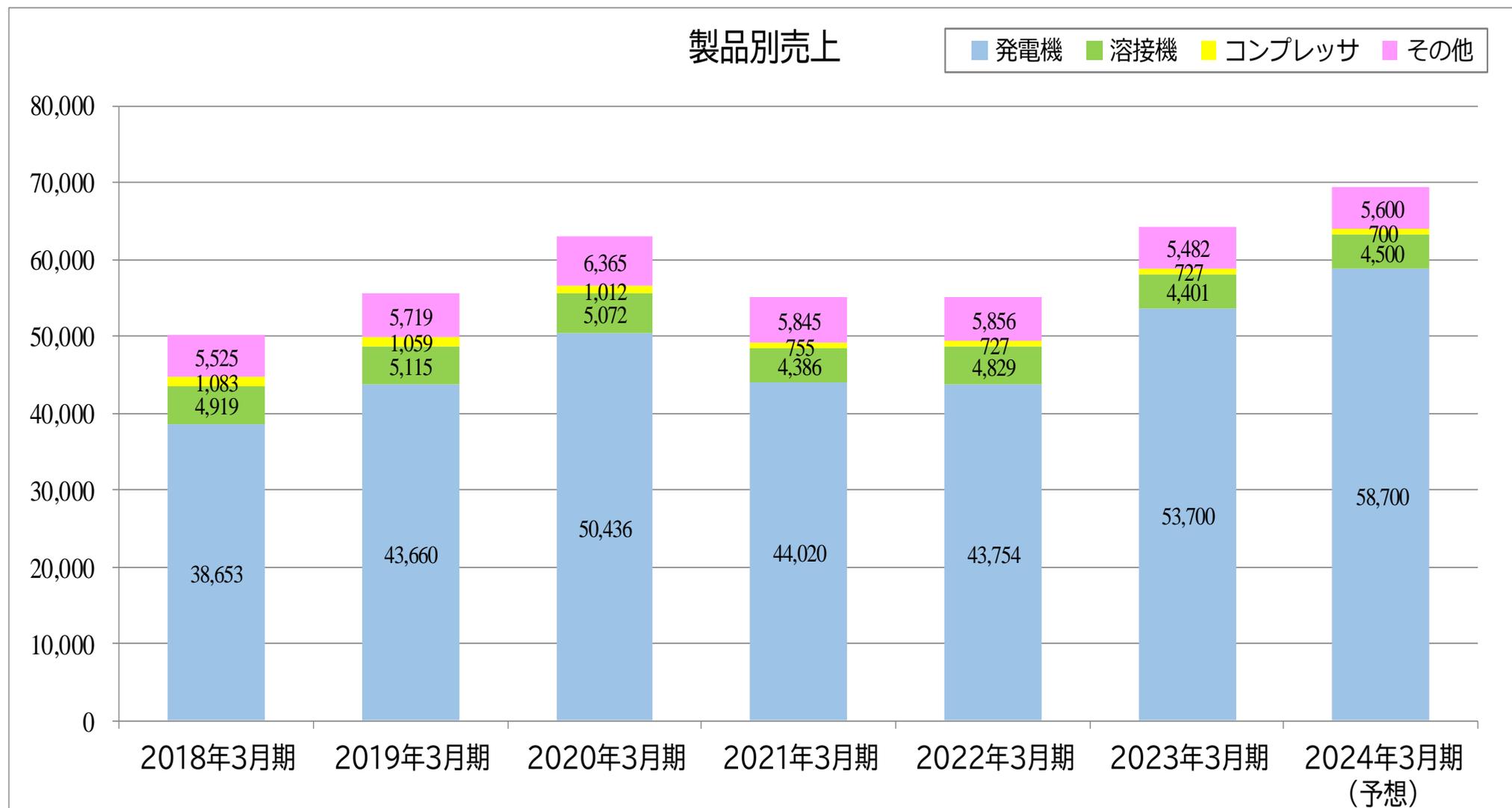
本社(日本橋堀留町)

# グループ会社

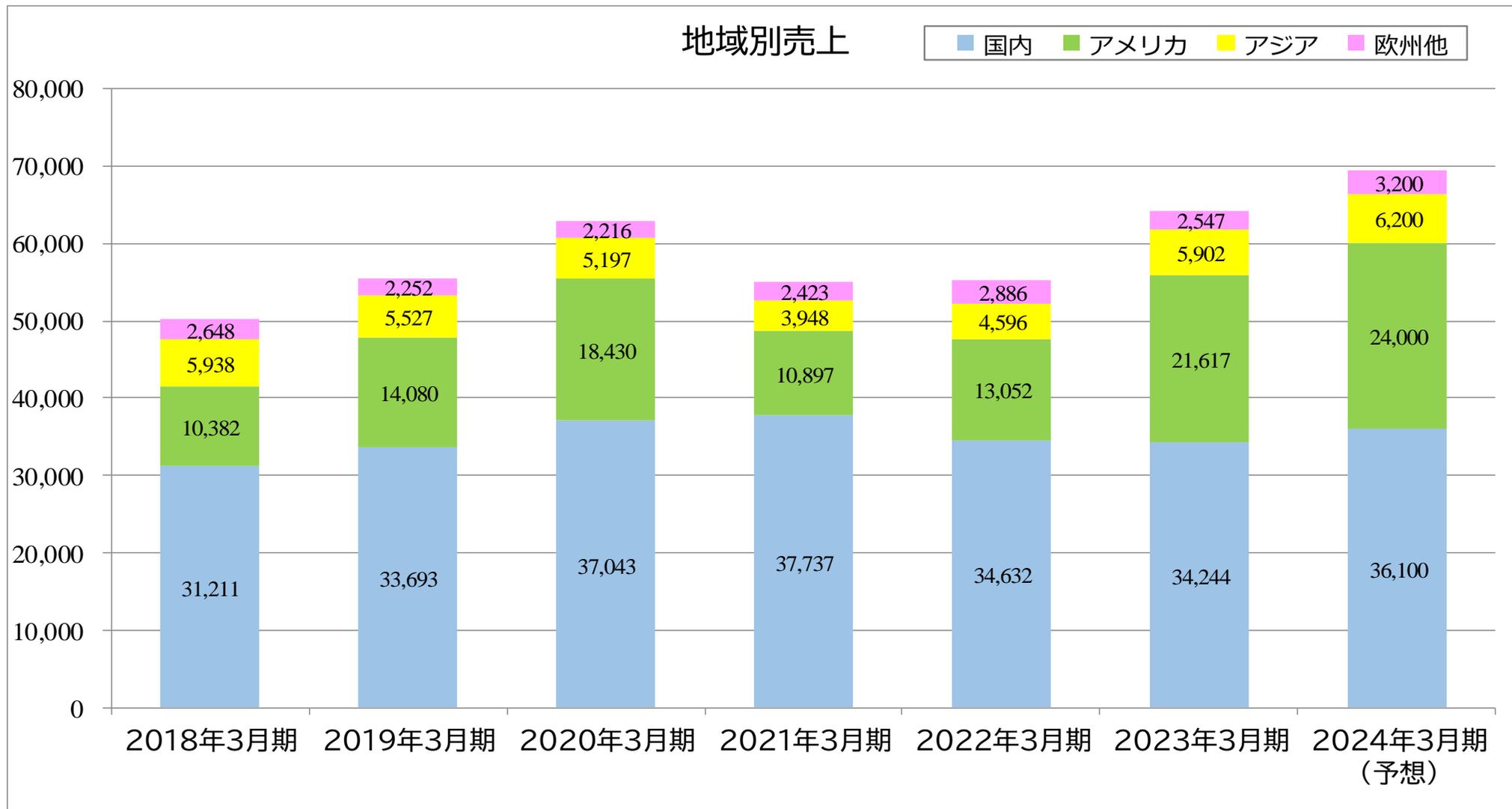


\*1.この他に持分法適用の関連会社「新日本建販株」(出資比率15.7%)があります。  
2.下線の引いてある会社は製造会社となります。

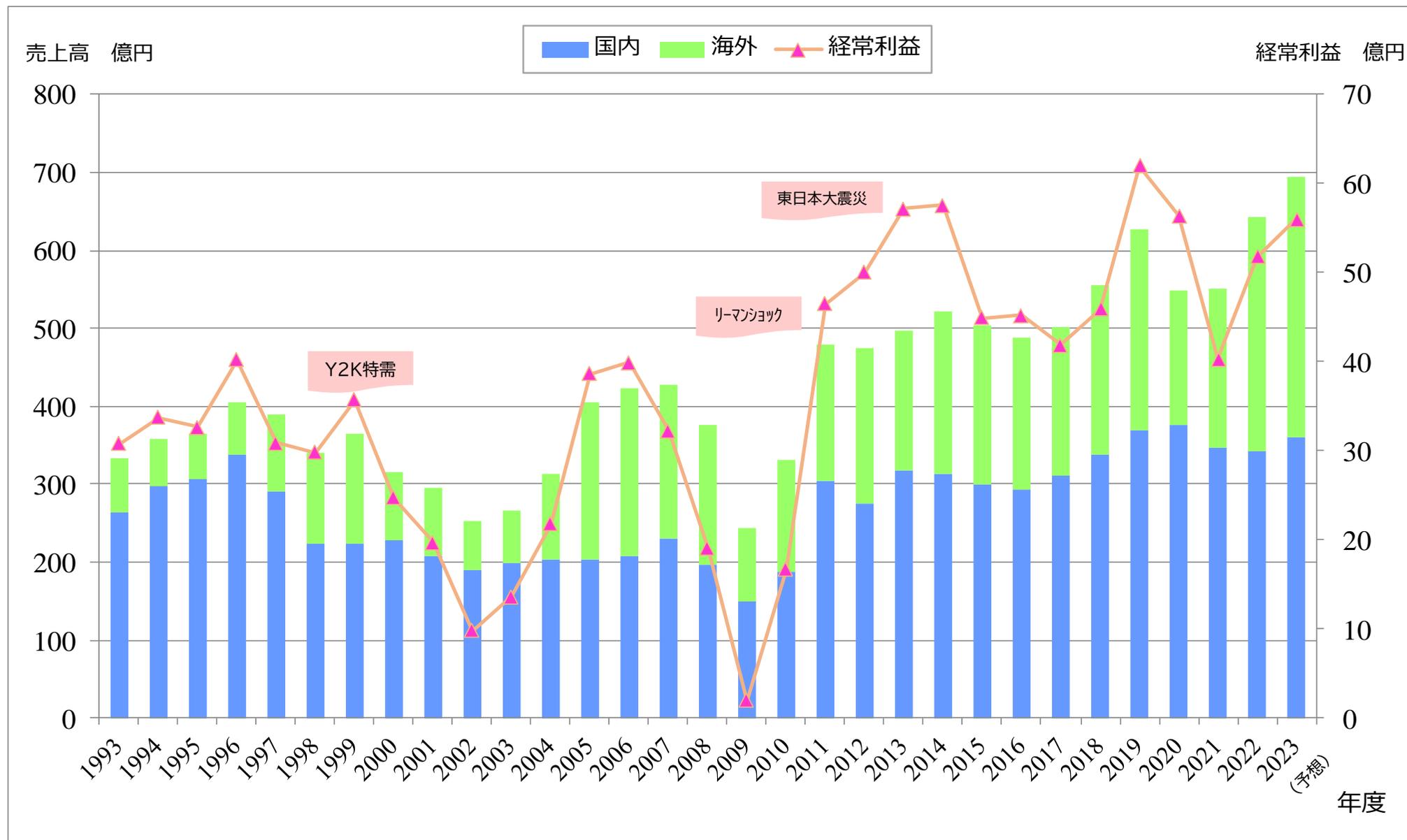
# 製品別推移と予想



# 地域別推移と予想



# 過去30年間の業績の推移



**Denyo**



本社：〒103-8566 東京都中央区日本橋堀留町2-8-5

TEL:03(6861)1111 FAX:03(6861)1181

ホームページ：<https://www.denyo.co.jp/>